

葛蒲湯の由来

むかし、むかし、ある娘のもとに夜な夜な通う男がおつただど。

ある晩のこと、一人のはずの娘の部屋からヒソヒソ声が聞こえるのに気づいた親がそつと覗いてみたんだど。そしたら、たいそう立派な男と娘が親しそうに話をしていただど。

見かけたことのない男を不審に思った母親は、娘に、男にわからぬように帰り際にその男の裾に糸を通した針をさしておくようにいただど。

次の日の晩、娘は母親に言われたようにそつと裾に糸を通した針をさしただけんじよ、男は針をさされたのもまったく知らずに帰っていっただど。

翌日、母と娘はその糸をたどっていくとなんとそこには、娘の縫針をつけた大蛇がにゆるにゆるととぐろを巻いておつただど。

たまげた母娘は、一目散に逃げ帰つただど。